

令和6年度 麴町幼稚園
第1回 幼稚園運営連絡会

○日時 令和6年5月31日(水) 16:00～17:00

○場所 麴町区民館 洋室D

○参加者

【委員】

鈴木 徹 (麴町二丁目町会長)
谷 眞理子 (ワーク・わくクラブ代表)
石井 雅幸 (大妻女子大学 教授)
酒井 浩子 (主任児童委員)
森 阿也香 (令和5年度麴町幼稚園 PTA 会長)
黛 茜 (令和6年度麴町幼稚園 PTA 会長)
田村 砂弥香 (麴町小学校長)
木村 恭子 (麴町幼稚園長)

【事務局】

荒木 久子 (教務主任) 高久 由起恵 (教諭)
北村 優佳 (教諭) 中嶋 優里菜 (教諭)

○内容

1. 委員の委嘱

2. 開会の言葉

3. 自己紹介

4. 幼稚園の経営方針について (園長)

- ・今年度の経営方針のテーマは「出会いから、豊かな学びが重なる幼稚園」とした。遊びや生活の中に学びが生まれることを、園内研究も通じて改めて実感した。心も体も動かす経験との出会いを大切にし、昨年度の研究の定着を図りながら、より発展させていきたい。
- ・園児減少への危機感がある。保育・教育の質の向上と、魅力アップの2つの柱をもとに、具体的な指針を立てて実践しているところである。今年度は3歳児が少なく1学級減少してしまったが、教育活動に活用できる部屋が一つ増えたことや、フリー主任が存在することで実現できることが多くある。今の状況を生かして、教育の質や魅力アップにつなげていきたい。

5. 事務局より

○年間計画・教育活動の概要 (荒木)

○今年度からの新たな試みについて

- ・未就園児クラス「ひよこぐみ」を開設した。区内在住の未就園児親子を対象に年間8回行い、本園のことを知ってもらう機会とする。少子化に伴い公立幼稚園は存続の危機にあるが、通わせたいと思えるような魅力を発信していきたい。

- ・親子で絵本を楽しむ場所として、毎週金曜日の降園後から15時までの間、「おやこえほんタイム」として場所を提示している。保護者同士のつながりの場にもなるとよい。
- ・園長の指導と教職員同士の連携のもと保育を行っているが、すべての活動は基本的に担任が担っており、他の教職員の指導を見たり学んだりする機会は中々取ることができずにいた。今年度は、現在の職員の体制や経験、一人一人の得意分野等を生かし、交換保育を意識的に実施している。その中で職員の引き出しが増えたり、幼児の新たな一面を見付けたりしながら、教育の質の向上につなげていきたい。

○地域との交流について（荒木）

- ・保育園との交流を行った。次週は小学校との交流も予定している。期待感と安心感をもって交流していきたい。
- ・5歳児は、先日4年ぶりに特別養護老人ホームにも行った。園歌や童謡、手遊びや簡単な会話などを一緒に楽しんだ。皆さんとても喜んでくださっていた。
- ・次週は山王祭もある。全園児で神幸祭を見に行く予定である。遊びの中でも、祭りの経験を生かして楽しんでいきたい。

○園内研究について（北村）

- ・今年度の園内研究は、昨年度の研究の成果や課題を生かし、深めたり、発展させたりしていくものにした。一人一人のよさやその子らしさに着目しながら、具体的な保育実践や、教員同士の学び合い、保護者・地域の方との連携を通じて麹町幼稚園の保育の質を高めていきたいと考えている。
- ・そこで主題を「一人一人のよさやその子らしさが生きる保育の展開を目指して」、副題を「保育の質向上プロジェクト」と設定し、具体策として3つのプロジェクトを立ち上げた。一つ目が「一人一人のよさやその子らしさ発見シートの更なる活用」、二つ目が「保護者との連携の充実」、三つ目が「こうじまちーずタイムの展開」である。まだ始動したばかりなので、また進捗を共有させていただきたい。

○4歳児の生活について

- ・4月以降4名の新入园児を迎え、現在23名在籍している。
- ・教師とも友達とも1年間関係を築いてきた中での進級ではあるが、幼児にとって進級は大きな変化であり、これまで見られなかった形で様々に思いを表している。一人一人のよさを見付けながら、改めて丁寧に関係を築いていきたい。
- ・初めてのことや様々な人との関わりなどを、意欲や期待感をもって楽しむことのできる雰囲気がある学級であり、遊びの姿も面白い。一人一人の魅力的な個性やよさが発揮されていくよう指導にあたりたい。

○環境教育について（中嶋）

- ・これまでよりもさらに意識的、計画的に環境教育のための活動を実施するため、今年度から月に1回程度の「環境デー」を設定し、各学級で身近な環境を大切にできるような指導を実践しているところである。保護者の方にも発信していくため、指導の様子はポートフォリオにして掲示している。
- ・5歳児は、石井先生のご指導のもと田植えを行った。砂場とは違う畑の土の感触を味わったり、普段食べているお米を育てることへの期待を感じたりしている。
- ・職員としては、今年度よりSDGsの観点からペーパーレス化を促進することとした。紙面での配布の必要性が低いものは、「すぐーる」を用いて配信するなどの取り組みをしている。

○3歳児の生活について

- ・現在13名で生活している。

- ・入園当初は緊張している様子も見られたが、少しずつ学級の教師の顔と名前を知ったり、友達が存在がわかったりして、安心してしたい遊びに取り組んだり、自分の思いを出したりすることができるようになってきた。その中で一人一人の個性の豊かさや持ち味が見えてきたところである。
- ・日々出会う初めてのことに関心をもち、楽しんでいる子どもたちの姿がある。

6. 懇談・意見交換等

【委員の方より】

- ・今年度は「山王祭」や「納涼こどもかい」「千代田区民体育大会」などの開催が決まっている。こうした取り組みを重ね、子どもたちにも地域や地域の人々に親しみをもってもらいたい。
- ・今年度からの取り組みは、楽しくて前向きなものが多い。園内からそうした雰囲気が溢れて広がっていくと思う。教職員にも健康第一で過ごしてほしい。
- ・公立幼稚園は全国的に危機的状況ではあるが、千代田区は特に幼小の連携が充実している。ここだからこそできるものを、たくさん宣伝してほしい。
- ・未就園児クラスの発足は、準備は大変だが、保護者にとって幼稚園のことを知る重要な機会である。無理のない範囲で取り組んでいってほしい。
- ・園庭マップからも、限られた環境の中で様々な種類の植物や生き物がいることがわかる。未就園児クラスや園公開などでも発信するのはどうか。食育の活動をそうした機会に合わせて行うのもよい。未就園児の保護者や、PTAに手伝ってもらう方法もある。この園だからこそできることをしてほしい。
- ・5歳児は、進級してから年長児の自覚をもって頑張っている。
- ・公立幼稚園存続にあたって、給食の需要はありそうである。共働きの世帯が増えているが、そうした人達にも幼稚園という選択ができるようになるとうい。
- ・都会の中にありながらも、豊かな自然が見られる園である。活用して教育につなげてほしい。
- ・今年度の1年生の姿が落ち着いている。幼稚園で、遊びを通して様々な力を獲得してきた結果であると感じる。

7. 閉会の挨拶